

今月の言葉は、中国語で^{jí sī guǎng yì}集思広益、日本語の意味は「衆知を集めて有益な意見を広く吸収する」という意味だそうですが、皆さんご存知でしたか？ お恥ずかしいことに、私は知りませんでした。

この言葉は、日本人の間で、中国の歴史上の人物の中では、孔子と並んで有名な、そして孔子より多くの人に好かれている、諸葛孔明が使った言葉なのだそうです。ご存知のように、諸葛孔明は日本での呼び名で、中国では諸葛亮と呼ばれています。因みに、孔明は、^{あざな}諸葛亮の字です。

この幼児向けのお話は次のようなものです。

「三国時代、劉備（蜀の初代皇帝）は臨終を前にして、国家の運営を諸葛亮に依頼し、諸葛亮に、劉邦の子供・劉禪を補佐して国を治めさせました。

ある日、楊と言う下っ端の役人が、諸葛亮に言いました。

『大臣様、あなた様は素晴らしい才能と大きな力をお持ちなので、そのお力は、国の大きな仕事を処理する時にお使いください。毎日の細々した仕事の処理にお時間を費やすべきではありません。そのようなことは、配下の役人達でも処理できます。若し難しい問題が起こった時でも、彼らは皆で知恵を出し合って、うまく処理するでしょうから』

それを聴いて、諸葛亮は尤もだと思い、彼の意見を取り入れました。その結果、諸葛亮の負担は軽くなり、毎日の国の政治も滞りなく行われました。大分経って、この楊と言う役人が亡くなった時、諸葛亮は、彼のために特に追悼文を書きました。その追悼文の中で、諸葛亮は次のように言いました。『あなたの提案に従って、多くの人を国家の仕事に参加させ議論をさせたので、大勢の人達の知恵と意見が集まって、非常に良い結果を得ることができました』。

言葉の意味は、大勢の知恵を集め、有益な意見を取り入れれば、どんなことでも良い結果を得ることがで

きる。使用例として書いてあるのは、「この件は、皆で何度も相談したので、最後には、衆知を集めて有益な意見を広く吸収して、素晴らしい解決方法を見出した」という文です。

乏しい知識と、独断的判断による私にとっての諸葛孔明は、三国の中で決して強力ではない蜀の国を背負って、孤軍奮闘した人、と言うイメージでしたから、言ってみれば民主主義を先取りしたようなこんなお話は新鮮でした。又、下っ端の役人が丞相に意見を言うこと

が出来、丞相もその意見を取り入れた、と言うお話にはビックリしました。

考えてみれば、諸葛孔明という人は、実際も素晴らしい人なのでしょうが、《三国志演義》の中でヒーローに祭り上げられたことで、より多くの人々から一層の関心を集めたようです。特に赤壁の戦いの時には、祭壇を設けて天に祈りを捧げて東風を呼び寄せ、川下からの船による攻撃を成功させたという話があり、妖術が使える人だったとの印象を与えました。

しかしこの妖術の話は、《三国志演義》の創作で、あの地方は気象条件によって時折強い東風が起るので、観天望気の知識がある孔明が、東風発生の予兆をとらえて作戦を実行したのだ、と言う解説があります。更には、史実を見ると、赤壁の戦いにおける諸葛孔明の貢献の度合いは低いのだそうですが、我々はどうしても、《三国志演義》や映画《赤壁》で語られる孔明の活躍を、本当のことだと信じてしまいます。

日本にいる我々は、中国人の記録好きな国民性のお陰で、何千年も前の人々の様子をも知ることが出来ます。それも一つや二つではなく、様々な角度から考察したものを読むことが出来、自分なりの〇〇像を作り出すことが出来るのですから、有難く、また楽しいことですね。

